



図書館サポーターズだより 明日に吹く風



ふと金木犀の香りがすると秋を感じます。段々と涼しくなってきますが、体調に気をつけて学校へ来てくださいね。そして図書館も利用してみてください。さて、今月も図書館サポーターがオススメの本をご紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～

『私の嫌いな探偵』：東川 篤哉 著 (913.6 || H55)

「関東地方の海沿いのどこか遠くに確実に存在する街、烏賊川市(いかがわし)」そして、烏賊川市を舞台に、繰り広げられる奇妙な事件。その事件を解き明かしていくのが、この話の中心人物となる鵜飼杜夫(うかいもりお)。彼は、雑居ビルの中に「鵜飼杜夫探偵事務所」と看板を掲げ、様々な依頼を受け生活しています。物語は、鵜飼のアシスタントや、事務所があるビルのオーナーも含めて進んでいきます。5つのストーリーから編成されていて、それぞれ主要人物が異なり、事件真相へ発展していく過程が、どれも凝っていて考えさせられます。また、話の作り方が巧妙で、読んでいて笑わせられるような場面が多いのもこの作品の特徴です。本格ミステリーとはまた違い、ユーモアやトリッキーな部分があるので、ミステリーが苦手な人にも、オススメしたい一冊です。

(Y・S)

『巴里の空の下オムレツのにおいは流れる』：石井 好子 著 (596.23 || I 75)

熱々のフライパンにたっぷりのバターで作るオムレツは、戦後間もなくにシャンソン歌手としてフランスへ行き、ある日パリのマダムから好子さんが習ったレシピ。“バター”ではなく“バタ”なのが古風で、なんとも響きが可愛らしいですね。実は半世紀前に書かれた本なのですが、本文の所々に出てくる古い言い回しさえ洒落たモダンな奥ゆかしさを感じます。



本書にはオムレツだけでなく、好子さんのモダンな料理のレシピが散りばめられています。それらは決して難しすぎることなく、材料さえ揃えれば再現できます。私も特別な日に好子さんのレシピを参考になんちゃってフレンチします。皆さんもこのモダンな味をお試しあれ！…読んでいると、お腹が空いてきます。

(N・S)

『帰ってきたヒトラー』：ティムール・ヴェルメシュ 著 (943.7 || V62)

1945年4月、売れない画家からナチス・ドイツ総統の地位にまで上りつめ、世界中を戦渦に巻き込んだアドルフ・ヒトラーは、連合軍に包囲されたドイツ首都ベルリンにある総統地下壕のなかで敗戦を目前にして自殺を図り、この世から姿を消した…はずであった。ところが2011年8月、終戦から半世紀以上が経った現代ドイツに再び生を享けることとなる。当初は悪趣味なコメディアンとして軽く見られていたヒトラーであったがその持ち前の巧みな話術と政治的な手腕から徐々に大衆からの人気が集まり始め、ついには人々のカリスマ的存在となっていく。人々からの支持を得始めたヒトラーが目指すものは…。

独裁的な政治家、ホロコーストを指示し、ユダヤ人の大虐殺を行った大罪人として描かれることが多いアドルフ・ヒトラーのカリスマ的側面を描き、現代社会における倫理感に一石を投じた作品としてドイツで大反響を呼んだ衝撃の問題作！今年の6月17日に映画も公開され、日本でも話題となった作品です。

(Y・Y)

* 図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。